

生き方『信じる』 神様のことば

ヨハネ6：25～40

■ ヨハネ6章26-27節

「あなたが何で私を探しているのか、それは、しるしでなくパンを食べたからです。だから無くなるパンでなく、永遠のいのちに至る食物のために働きなさい。」イエス様は、「いつまでも保つ永遠のいのちのために働きなさい。」と言われました。それに対し、人々は、「モーセは何年もマナを降らしたのに」とイエス様に不平を言いました。私たちが求めているものは、食べられるパン=目に見える物質的な豊かさなのです。私たちが見るべき事は目には見えないのです。教会に来はじめた時は、嬉しいばかりだったのが、周りの人との比較、劣等感が出てきたり、神様に対しても、願いを叶えてくれないと、神さまにも不満や文句を言う心が出てきます。しかし、聖書は、見ゆるところによらずして、信仰によって歩むのだ。何を見ずまた聞かずとも神の御約束に立とう。この世のものを見るだけでなく、信じる決断をしようと言われています。

■ マタイ4章1-4節

荒野とは教会のことで、そこには『誘惑』がやってきます。イエス様も試みるものにより誘惑を受けました。その目的はイエス様の目線をこの世の目線にずらすこと。つまり欲に生きるようにさせたいのです。イエス様はそれに対して、「人はパンだけに生きるにあらず」と言われ、更に「私は神様にやれと言われたことしかしない。」ときっぱり断りました。

イエス様の目的は、「あなたが本当のあなたになる」ことなのです。そのために、糧を得ること以上に、神様の御言葉を得る事を教えられました。この時、イエス・キリストが御言葉となるために、彼自身が誘惑させられてはいけない言葉だったのです。

■ ヨハネ6章30節

6:30 そこで彼らはイエスに言った。「それでは、私たちを見てあなたを信じるために、しるしとして何をしてくださいますか。どのようなことをなさいますか。」と言いました。6:32 イエスは彼らに言わされた。「まことに、誠に、あなたがたに告げます モーセはあなたがたに天からのパンを与えたのではありません。しかし、わたしの父は、あなたがたに天からのまことのパンをお与えになります。6:33 というのは、神のパンは、天から下ってきて、世に命を与えるものだからです。」6:34 そこで彼らは、イエスに言った。「主よ。いつもそのパンを私たちにお与えください。」6:35 イエスは言われた。「わたしがいのちのパンです。わたしに来るものは決して飢えることがなく、わたしを信じる者はどんなときにも、決してかわくことがない」

みなさん、私たちが食べたい、満たされたいという感情は、何なのでしょうか。あの満足した時の達成感とは何なんでしょうか。財布の中を見て、これだけあれば安心。もっと安定したい、仕事がうまくいくように。それは、収穫祈願、商売繁盛、世の中の欲に心を奪われているということです。神様は私たちの心に何を願っておられるのでしょうか。私たちは、神様からいただいたものの中から与えていることを忘れてはいけません。

■ 神様は私たちのこころに何を願っておられるか

イスラエルの民は、この地のリーダー達対イエス様でした。この地のリーダーたちは、自分たちの国を正しくリーダーとして仕えてくれる人達だったのでしょうか。日本も新しいリーダーに変わりました。私たちは本当にその時建てられたリーダーのために祈っているでしょうか。この世の中には、沢山の間違った情報がある中で、私たちは本当に神様に聞いて祈らなければいけません。私たちは自分が神様のようになってしまっていることを悔い改めなければいけません。なぜ荒野でモーセが神様に、エジプトから出てきたものの文句ばかり言う民に困り果て、神様に助けを求めたのです。空腹でパンやウズラを求めていたイスラエルの民ですが、現代の私たちが求めているものも、残念なことに同じものを求めているのです。

■ 教会に来て何を求めているか

【まじめなクリスチヤン】とは、いつも神様の前に出てきて話してくれる人のことです神様との関係は、大好きな人との関係とよく似ています。あなたは喜んで礼拝に来ていますか？神様は、私たちを愛するがゆえにイエス様を送られました。自分の罪と問題に目を向けて悔い改めて、そしてそこから立ち返る時に、神がなす奇跡をとおして人々に救いがもたらされるのです。

■ 神様はみことばで私たちの根底を変えていく

Relation【神のみもとに】と Religion【奉仕（労働）】マルタは、奉仕しようとしたのに対して、マリアは、イエス様に会えたことを喜び、神のみもとにいることを選びました。マグダラのマリアは、十字架に架かる前のイエス様の足を、ナルドの香油で洗いました。ユダはそんなことをしたらもったいないと、言いました。私たちは神様に対してどちらの心がありますか？イエス様は、いつもいてくださいますが、礼拝は、2人3人イエス様の御名によって集まるところです。そこで私たちは、神様の愛を受け取りたい、声を聞きたいから聖書を開くのです。

まとめ

私自身が、神様に作られ愛されていることを感じて、いつも喜んでいたいと思います。

私達がどのような状況でも関係ない、ただ神様は変わらず素晴らしい。大好きなイエス様に近づく者になりたいと願います。